

静脈産業の

現在地と未来



(8)

資源循環ネットワーク
彌永 冴子

つで、具体的な情報開示
までのステップは、「L
EAP-Locate
(発見する)、Evalu
ate (診断する)、A
ssess (評価する)、
Prepare (準備す
る)」に従うことが有効
であり、分析に用いる
データおよび情報は、一
次情報(直接測定)が望

る。一方で、TNFDは
またガイドライン等が発
表されて日も浅く、国内
大手企業においても、議
論の俎上にのぼったばか
り、というケースも多い
だろう。

は、大きく3つある。
1つ目は、「社会に向
けた静脈産業事業の付加
価値アピール」である。
静脈企業が行う資源回収
やリサイクルといった事
業は、それ自体が自然資
本の持続可能性に寄与し
ている。静脈企業にとっ
てTNFD情報開示は、
自社の事業における社会
的付加価値を見える化す
る手段になり得る。

2つ目は、「動脈産業
とのビジネス機会の拡大」
である。大手動脈企
業が開示しているTNFD
Dへの取り組み内容を見
ると、「有効な対策」と
して、「廃プラスチック
のアップサイクル」等が
挙げられている。TNFD
情報開示を積極的に行
うことで、新たなビジネ
スチャンスを見出すこと
につながる。

3つ目は、「静脈企業
自身のネイチャーポジ
ティブ経営促進」であ
る。TNFD情報開示ま
でのステップにおいて
は、自社事業の自然資本
に対する影響度をさまざま
な角度から評価する。
自社の事業がどの
程度自然資本にイ
ンパクトを与えて
いるのか客観的に
評価し、よりネイ
チャーポジティブ
な経営へと舵を切
る指針になる。
また「TCFD」
という言葉が世間
で認知されていな
かった頃、「本当
に取り組み必要が
でてくるのか」「す
ぐに利益となって
還元されない取り
組みに、人的資源
やコストをどこま

ネイチャーポジティブを主眼に置いた新指標

TNFD情報開示に取り組む意義

議論が活発化している。
世界経済フォーラムの年
次報告書である「グロー
バルリスクレポート」で
生物多様性の損失と生体
系の崩壊が環境リスク上
位にランクインしたこと
で、自然資本関連リスク
に対応するフレームワー

が準備を進め、2021
年に正式に発足した。
TNFDは、TCFD
の生物多様性版とも呼ば
れており、構成要素など
において共通する部分が
多いため、TCFDに
関しては、今や多くの企業が
強調したい。

のように聞かせるかもし
れない。しかし、リサイ
クル等の資源循環事業を
本業とする静脈産業に
そ、メリットのある取り
組みであることをここで

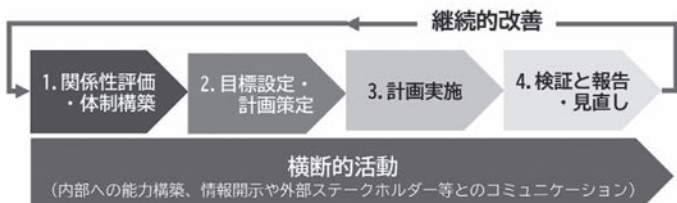
3つ目は、「静脈企業
自身のネイチャーポジ
ティブ経営促進」であ
る。TNFD情報開示ま
でのステップにおいて
は、自社事業の自然資本
に対する影響度をさまざま
な角度から評価する。
自社の事業がどの
程度自然資本にイ
ンパクトを与えて
いるのか客観的に
評価し、よりネイ
チャーポジティブ
な経営へと舵を切
る指針になる。
また「TCFD」
という言葉が世間
で認知されていな
かった頃、「本当
に取り組み必要が
でてくるのか」「す
ぐに利益となって
還元されない取り
組みに、人的資源
やコストをどこま

も象徴的な「ふるさと」
心の風景」の一つだろう。
後世に守り伝えたい貴重
な自然資本である。
近年、企業や金融機関
の事業が自然環境に与え
る影響と、自然から受け
るリスクを理解し、開示
するための国際的なフ

レームワークであるTN
FD(自然関連財務情報
開示タスクフォース)の
発計画(UNDP)など

クへの需要が高まったこ
とをきっかけに、国連開
示タスクフォース)の
発計画(UNDP)など

TCFDは、TCFD
の生物多様性版とも呼ば
れており、構成要素など
において共通する部分が
多いため、TCFDに
関しては、今や多くの企業が
強調したい。



TNFDの基本プロセスイメージ (出典：環境省/生物多様性民間参画ガイドライン 第3版)

自社の事業がどの
程度自然資本にイ
ンパクトを与えて
いるのか客観的に
評価し、よりネイ
チャーポジティブ
な経営へと舵を切
る指針になる。
また「TCFD」
という言葉が世間
で認知されていな
かった頃、「本当
に取り組み必要が
でてくるのか」「す
ぐに利益となって
還元されない取り
組みに、人的資源
やコストをどこま